

特集●スポーツと公衆衛生—地域の関係性の構築

スポーツ振興から見える公衆衛生活動の展望 ————— 大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学 高島毛敏雄
 スポーツと地域、都市、民族、国家—現代社会におけるスポーツの実相 ————— 日本体育大学 谷釜 了正
 地域社会とスポーツクラブ

① ドイツにおける地域とスポーツクラブ ————— 帝京大学教授、日本スポーツ文化研究所所長 福岡 孝純
 ② アルビレックス新潟から見た地域と人材育成 ————— アルビレックス新潟人材育成部長 若杉 透
 地域スポーツを支援する人材育成—現状と課題 ————— びわこ成蹊スポーツ大学 海老島 均
 大阪市におけるスポーツ振興の現状と期待 ————— ゆとりとみどり振興局スポーツ部生涯スポーツ担当 森 幹雄
 わが国のスポーツ振興の現状と課題 ————— 文部科学省スポーツ・青少年局生涯スポーツ課 瀬倉 信康
 [インタビュー] 地域に根ざし世界に伸びるスポーツクラブの夢

————— (社)日本プロサッカーリーグ・キャプテン 川渕 三郎

● 視点

特別支援教育と保健医療福祉の接点 ————— 北海道教育庁生涯学習部学校教育局医療参事 田中 宏之

● 特別記事

介護予防のストラテジー—社会疫学の視点から ————— Harvard School of Public Health Ichiro Kawachi

あ と が き

20年位前の一時期、国際協力の仕事に携わったことがあります。まだわが国の保健分野での国際協力が立ち上がった頃で専門家も少なく、私のところまで協力依頼の話がJICAから舞い込んできました。東南アジアや南米の数カ国で実施されていたプロジェクトのお手伝いに何度が出掛けました。南米に行く時に、現地でのマラリア対策に(現地視察の予定があったため)蚊取り線香を持っていったことを覚えています。また、その時に黄熱の予防接種を受け、ニューヨーク行きの飛行機の中で、(たぶん)副作用の発熱で苦しんでいたことも覚えています(私が機内で何度もお酒を頼むので、偶然隣に座っていた女子高生に呆れられたことも覚えています)。

防虫剤や予防接種など、現地での感染症対策をとっていったつもの私も、昨年の狂犬病発生のニュースには驚きま

した。当時、わが国以外の国々では狂犬病が発生していることは知識としてはありましたが、現地でも犬に注意するということはなかったような気がします(もっとも車での移動が多く、犬に接することもなかったと思いますが)。

昨年の事件で改めて海外での感染症の危険を感じ、今年の特集を企画してみました。読者の皆さんの参考になればと思います。

今月号の「視点」は日野原重明先生に憲法九条と公衆衛生についてご執筆頂きましたが、本誌では来年の1月号で「憲法と公衆衛生」の特集を予定しています。現在、編集委員会で総力をあげて企画に取り組んでいます。憲法改正論議が喧しい中、公衆衛生人としてどのように考えるか、ご期待ください。

(西田茂樹)

公衆衛生(第71巻 第7号) 2007年7月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,415 円(本体 2,300 円+税 5%) (2007 年々ぎめ予約購読料 28,200 円 ※配送料弊社負担)

発行：株式会社 医学書院 代表者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

本誌編集室直通 TEL (03) 3817-5718 FAX (03) 3815-7802

販売部直通 TEL (03) 3817-5659・5660 FAX (03) 3815-7804

E-mail: koshu@igaku-shoin.co.jp 振替口座 00170-9-96693 番

印刷所：三美印刷(株) TEL (03) 3803-3131

広告申込所：(株)東広社 TEL (03) 3409-8803/デザイン：デザイン・プレイス

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

© 2007. Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ **JCLIS** (®日本著作出版権管理システム委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつと事前に(®日本著作出版権管理システム (03-3817-5670) の許諾を得て下さい。

・ 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

・ 公衆衛生 URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/koshu/>

編集顧問

多田羅浩三 大阪大学名誉教授・放送大学教授

林 謙治 国立保健医療科学院

編集委員 (50 音順)

阿彦 忠之 山形県健康福祉部・衛生研究所

品川 靖子 東京都杉並区杉並保健所

高島毛敏雄 大阪大学・社会環境医学

西田 茂樹 福島県衛生研究所

編集室通信

トルストイの名作『イワンのかば』の印象的なシーンです。イワン王国に戦争をしにやってきた兵隊は、攻撃をしても何をして、国民たちはただ泣くばかりで、誰一人として自分を守る者はいない。それどころか「さあ、何でもって行きなさい」と食べ物や家畜をくれたり、「うちの国に住みなさい」と勧めてくれる始末。「なんのためにお前さんたちは人を殺し家を焼くんだ。そんなに欲しいのなら、何でも持って行けばいいのに」との言葉に、兵隊たちは悲しくなり八方へ逃げて行ったとき、無抵抗主義って、素晴らしい。平和と愛の源。日本国憲法第九条にも、その偉大な力を感じます。今号の「視点」では 96 歳の臨床医、日野原先生が憲法九条についてご執筆くださいました。ぜひ一読を。(野中)

(担当/野中・天野)